

特集「野沢温泉」

「野沢温泉」の特集に際して

大河内 正 一¹⁾

Nozawa Spa in Nagano Prefecture—Introduction—

Shoichi OKOUCHI¹⁾

日本温泉科学会第63回大会を野沢温泉(9/13~16, 長野県)で開催する運びとなり、野沢温泉をより多くの人々に改めてご理解いただくために、特集を組むことになりました。今回の野沢温泉での大会開催は、私が生まれた1949年の第2回大会以来の実に61年振りとなります。しかし、第2回大会の当時の記録は全く残されてなく残念と言わざるをえません。また、長野県としての大会開催は、これまで諏訪が2回、軽井沢、浅間、別所、白骨温泉がそれぞれ各1回で、今回の野沢は前回の白骨温泉からも21年振りとなります。今回の特集を担当することになり、今日までの温泉科学会を築き、60回を超える大会を営々として続けられてこられた大先輩方々の重みを、改めて実感することになりました。

野沢温泉は、発見されて1000年以上の古より、自力で滾々と湧き出し続けている貴重な自然湧出の温泉で、鎌倉時代の第84代・順徳天皇が選んだとされる「三御湯(さんみゆ)」の一つ犬養御湯として歴史にも名の知られた温泉でもあります。

特集では、以下の野沢温泉の歴史要素、泉質と地質関係、泉質の効果、およびその効果を持続するための必要条件、の4つの内容で構成できた。

1. 「野沢の温泉資源と共同湯を支える地域共同体の意義」(原著) 石川理夫
2. 「長野県野沢温泉の泉質」(原著) 江守建太, 塚原弘昭
3. 「野沢温泉水(硫黄泉)の特性と皮膚に及ぼす効果」(総説) 大河内正一
4. 「硫黄泉を対象とした酸化還元電位分析法の検討と野沢温泉水への適用」(原著) 森本卓也ら

具体的には、1. では、今日の温泉資源の枯渇や乱開発による全国的な温泉地が抱える大きな問題に対して、温泉資源を守り、現在13もある共同湯を守り支えてきた地域自治組織と湯仲間に象徴される野沢温泉の歴史的意義の重要性を明らかにしている。

2. では、野沢温泉地域の源泉の水泉質を調査し、地質構造と関連させ、野沢温泉の各種源泉についての起源を、毛無山と水尾山体中の源水に基づいて考察している。

3. では、野沢温泉水への継続的浴用で皮膚の弾力性の向上や、温泉水がシミやソバカスの原因となるメラニン生成の抑制効果を有することを明らかにしている。これらのことから、これまで巷間

¹⁾ 法政大学生命科学部 〒184-8584 東京都小金井市梶野町3-7-2. ¹⁾ Faculty of Bio Science and Applied Chemistry, Hosei University, Kajinocho 3-7-2, Koganei-shi, Tokyo 184-8584, Japan.

言い伝えられてきた硫黄泉の美肌効果の一端を証明している。一方、エージングが進行した温泉水では、効果は失われることも明らかにしている。

4. では、ORP（酸化還元電位）分析法により、野沢温泉を含めた草津温泉や川湯温泉などの硫黄系泉質に関わる評価基準を示し、温泉水の品質管理や改善にそれらの手法が有効性を有することを提案している。

特集は、今回の新たな3つの論文と、総説も野沢温泉に関わる2008年以降の3つの論文が基になっていることから、1つの温泉地がこの3年間に6つの論文として研究された成果を紹介することとなった。1つの温泉地の研究としては、近年には珍しいことと思われる。野沢温泉の魅力と思われるが、全国各地にある硫黄系温泉にとっても、これらの研究成果を利用、応用していただければ、今回の特集が生かされるものと期待している。